福岡インディペンデント映画祭2020（2020/11/19～23日）レポート

　本映画祭は2020/11/19～23日まで開催されました。会場は福岡市内にあるサイエンスホールという建物の6階です。
尚、本作は優秀映画賞を受賞しました。（事前通知にて連絡済）

「夢幻紳士人形地獄」は20㈮夜の上映でした、参加したのは以下六名。
海上ミサコ（監督）
皆木正純（キャスト・魔実也役）
岡優美子（キャスト・雛子役）
杉山文雄（キャスト・十蔵役）
森川陽月（キャスト・村人さぶちゃん役）
佐東歩美（脚本）
菅沼隆（脚本・監督補)

ゲスト犬童一心監督と

　コロナ禍という事もあり、会場入口で検温と受付を済ませて入るなど、注意を払い安全に楽しめるよう配慮されてました。
　ドア脇に大きな映画祭ポスターが張ってあり、参加者はめいめいサインを書きスタッフに写真を撮ってもらいます。写真は公式サイトのTwitterで随時Upされ、映画祭の様子は手に取る様にわかります。来れない方の為の配慮が丁寧でした。

金曜夜で心配しましたが、上映には20名ちょいのお客様が来てくれました。スタッフの方も客席に座り、わりと席は埋まった感がありました。

上映後の質疑応答では映画祭の選考にもかかわっている大塚大輔さんが司会をされました。全員の名前と役名、ポジション、登壇してないスタッフまでひとつの間違えもなく紹介。作品を作った経緯、完成までの苦労、原作者とのやりとりや、印象にのこった箇所について話題になりました。特に主役が「カッコいい！」との事でした。ああ、嬉しいです。

舞台挨拶用に、海上組はフェイスシールドを事前に用意。マスクで舞台挨拶では俳優部に申し訳ありません。後で他の舞台挨拶をみて全チームマスクだったので、用意しておいてよかったと思いました。

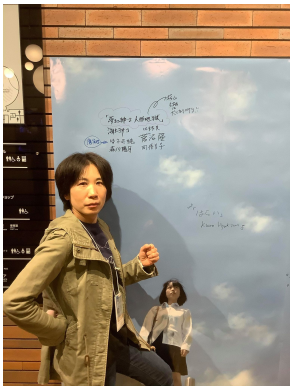
大塚さんと

賞は最初から決まってましたので、あとは焦る事なく他の監督さんの作品を観ました。中学生の作品（アニメーション）、韓国からの招待上映等ユニークなプログラムでした。グランプリ作品はさすがに20代の監督さんでしたが、他はプロとしてディレクターしいてる方、普通のお仕事されてる方、学生、舞台をやってる初老の方等多方面で生活し、映画制作という行為で共通する方々が集まってました。20年前でしたらインディペンデント映画を続けることは困難でしたが、技術の進歩のお蔭で続けられ、地方の映画祭も増え、それに応募して評価を得ることが、作り手にとって継続できる励みになっているのだと実感しました。

海上組メンバー（自費の参加にも関わらず集まってくれました　感謝）

　映画祭も無事終わり、帰路に着く途中で主役の皆木氏が「映画のお蔭で、映画祭に呼んでもらい福岡までこれた、ありがとう」と感動発言！そう「夢幻紳士人形地獄」のお蔭で、知らなかった人々と知り合うことができ、私たちは遠くに来ることができました。映画は人に観てもらって完結します。そこから巣だっていきます。まだ終わりでなく、人々の手に届く行為が続きます。

このような機会を与えてくださった高橋葉介先生には改めて感謝致します。
また監督交通費一部を援助してくださったシネマプランナーズの皆さまもありがとうございました。



　来年は劇場公開です（今後の展開はまだ発表できませんが・・・）そして次の作品を作り、また福岡インディペンデント映画祭に参加したいと決意しました。

まだ続く映画の旅、今後とも宜しくお願いいたします。
2020/11/28　ビーチウォーカーズコレクション海上ミサコ